

TO: じゅんじゅん、りゅうさん、とし G、金井さん。

CC: はまやすさん、井手さん、児玉、岡田。

(2019/02/19)

都度、恐縮です。

『プライベート・エディション』

恐らく、明日（今、AM4時なので、今日）には完成します。

完成しましたら、お知らせいたします。

「これが、父さんの成した仕事だよ」と、息子たちに、
胸を張って誇る事の出来る作品を遺すことが出来ました。
皆さんのお蔭です。ありがとうございました。

あまりにも長きに渡り、世間という名の親から、
無視、否定され続けたために、
自分から、世間という名の親を絶縁した子ども、
みたいな感じになっていたのだと思います。

でも、自分の仕事を誇っていいのだと自覚した時、
自分が、世間を受容しようと思いました。
自分が親の立場に立って、世間という名の子どもを受容しよう。

人間たちを。神の子どもたちを。

「人はみな、等しく、神の子」

まさか、そんな宗教じみた（キリスト教じみた）セリフを吐く日が来るとは、
夢にも思っていませんでしたが。

でも、現実問題として、その通りなのです。

人は、みな、等しく、神の子なのです。

(父＝アバの代理たる) 私は何も言わないし、導きもしません。
ただ、子どもたちが、気付くまで、
904号室の中から、見守り、見届けるのみです。

神が、神々が、手を差し伸べているのだということに。
その手を握りさえすればいいのだということに。

およそ、2000年前、父＝アバが、アナログ・メシア（イエス）に語らせたのは、
抽象的、道徳的な「教え」でしたが、
今回、父＝アバが、デジタル・メシアに語らせているのは、
非常にロジカルな、理論的、論理的「教え」です。

「こういう脳の使い方をして、こういう視点で、世界を見て、
こういう考え方、こういう手法で、社会を構築し直せば、
人間は、平和で仲良く、ナチュラルに暮らすこと出来るんだよ」

・・・という「教え」であり、その「教え」の中核になっているのが、
私が（大国主神を經由して）自動書記で執筆し、2015年に出版した『ハートメイカー』で
す。
そして、そもそも、なぜ父＝アバは、苦勞することが分かっているのに、
子（人間）を作る（サルをヒトへ進化させる）気になったのか、
人間が認識している世界は、どのようなカラクリで生み出されているのか、
人間という生命体が、どのような仕組みで稼働しているのか、etc
といった、ありとあらゆる「謎解き」を、
山川先生の方へ中継しているわけです。

一つだけ、「答え」を書いておきます。
山川先生に中継したら、山川先生も、
「ありがとう。私も同じ考えです」と同意して下さったので。

字義通りの意味合いにおいて、
「宇宙＝神」です。それが、創造主たる神（父＝アバ）の正体です。